

82.2で、報告数69件は推計値より16.1%低かった。一方で、阪神圏の2000年-2006年の報告数を基に最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は31.3であり、報告数57件は推計値より82.1%高かった。

・関東および近畿地域以外の対照地域の2000年-2006年の報告数から最小二乗法で求めた2010年の推計報告数は73.9で、報告数88件は推計値より19.1%高かった。

D. 考察

1. MSMを対象とした広報戦略の効果

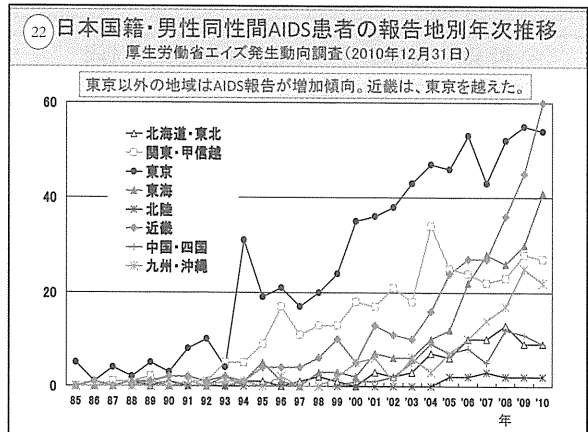
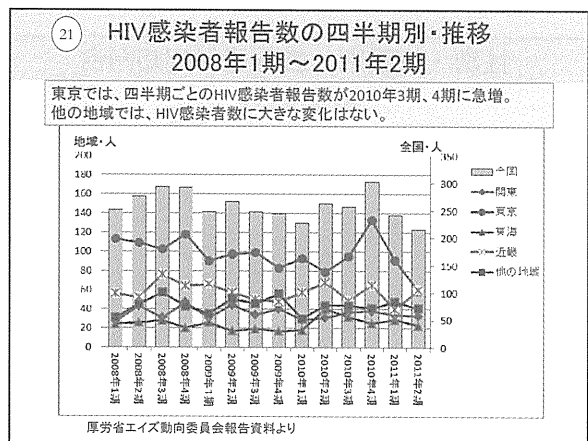
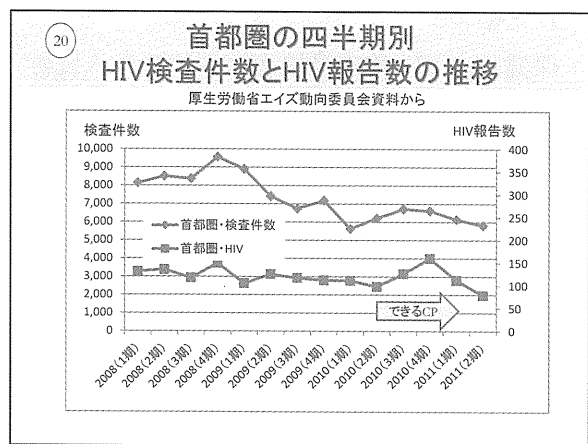
首都圏ではMSMのHIV検査の広報に参加した保健所を定点として、あんしんHIV検査サーチにより受検勧奨をコミュニティベースに啓発普及した。その結果、定点保健所でのHIV検査受検者に占めるMSM割合は上昇し、また男性受検者での陽性割合も上昇した。HIV感染者の内、MSMが60%を超えること、MSM対象のHIV検査における陽性割合が5%程度であることから、この陽性割合の上昇は、MSM受検者の増加に関連していると言える。またこのような効果は、2010年度に実施した「エイズ発症予防できるキャンペーン」によってもたらされたことが、首都圏バー顧客調査のポスター認知とHIV受検行動の関連によって示されている。

厚生労働省エイズ発症動向調査(2010年報告)によれば、首都圏のHIV感染者報告数は、2010年後半に増加がみられ(図⑳)、他の地域ではこのような変化は見られていない(図㉑)。また、地域ブロック別のエイズ患者報告数は、近畿地域、東海地域で上昇が見られ、東京や他の地域では2010年は横ばいの傾向であった(図㉒)。これらのHIV/エイズ発症動向から、東京を中心とした首都圏では、HIV検査が促進されHIV陽性者が増加し、エイズ患者発生を抑制した可能性が考えられる。

その一方で阪神圏では、他の対照地域と同様、HIV検査の促進が十分ではなくHIV陽性

者の報告増に至っていない、このためエイズ患者の増加が続いたものとする。戦略研究では、阪神圏はクリニック7機関での検査普及であった。年間に200件を超える受検者で、陽性割合も約5%と高いが、エイズ患者の発生を抑制するには十分な検査キャパシティでなかったと言える。

戦略研究では、MSMを対象にHIV検査を促進するにあたり、検査で陽性と分かたり、HIV検査に不安を抱いている人に対しての、相談等を含めた支援体制を事前に検討し、首



都圏では HIV マップ、阪神圏では HIV 陽性者のための電話相談やピアグループミーティングを設置した。さらに、HIV 検査担当者に向けた講習会を独自に企画し、自治体や保健所と共同して実施した。こうした取り組みは、MSM に向けて積極的な HIV 検査広報活動を行うにあたって最も重要なことであった。

2. 学際的・国際的・社会的意義

首都圏ではこれまで殆どエイズ関連の啓発介入がなかった地域での啓発活動を展開し、阪神圏では、6000 人規模の大型イベントを経年的に開催し、MSM の中でも HIV/AIDS に無関心な層を呼び込んだ。Hard to reach 層である MSM において、当事者 NGO の訴求性のある啓発活動により介入対象層が拡大したことは社会的意義が大きい。

首都圏では保健所等の検査キャパシティの高い施設で、阪神圏ではクリニックにおいて、MSM の受検しやすい受検機会を確保し、検査行動を促進させた。当事者 NGO と関係機関が協働する研究体制を構築し、検査普及や予防介入に関する啓発事業と効果評価を行う研究を連動させて取り組むことの有効性を明確にした。今後のエイズ対策の展開に重要な成果が得られており社会的意義が大きい。

3. 今後の研究・施策への発展性

NGO/NPO、研究者・自治体等関係機関が協働する研究体制は、訴求性も高く効果的な介入を実施しておりエイズ対策のモデルとなる。

HIV マップ、検査担当者への MSM 対応の研修会、陽性者支援のための電話相談、阪神圏の MSM 対象のクリニック検査、イベント会場での即日検査体制などは、他地域の MSM を対象とした啓発介入の参考となる。これらは、脆弱性の高い性産業従事者や IDU など他の個別施策層にも有用であり、一般化できる。

保健所・公的検査機関での HIV 検査受検者数や受検者の属性の動向は予防啓発や早期検

査・早期治療のエイズ対策効果を把握する上で有用であり、本研究で開発した調査法は今後のエイズ対策に活用できる。

4. 研究成果の公表状況

- ・一般国民向けに戦略研究に関するシンポジウムを開催(東京、大阪、神奈川)。
- ・保健所等の HIV 検査担当者に向けた MSM や HIV 陽性者への対応に関する研修会の実施。
- ・国内外の学会発表(日本エイズ学会、The 10th ICAAP、The 11th ICAAP、等)
- ・2010 年 7 月 NHK 教育テレビ「ETV 特集」で取り組みの一部を放映。
- ・イベント会場での即日検査については報告書を作成した。HIV 陽性告知を受けた人への電話相談体制などマニュアル作成を予定。
- ・今後、MSM への取り組みとして参考となるガイドライン作成を予定。

5. 費用対効果

- ・一般国民を対象とした大規模キャンペーンは MSM への訴求性は低くその有効性は明らかではない。当事者 NGO が実施する啓発介入は低コストで比較的短期間に MSM の受検行動を促すことに成功した。今後 HIV 感染率の高い MSM の受検行動を促進し、その受け入れを増やす体制の構築が望まれる。
- ・HIV 感染症の医療費はおよそ 20 万円/月で、生涯医療費は 1 億円程度と推定される。本戦略研究では 1 億 7000 万円/年が首都圏、阪神圏の MSM を対象とした研究課題 1 に充てられた。MSM に訴求性のある啓発は、HIV 検査受検行動や HIV 感染予防行動を促進しており、これはエイズ発症やそれに伴う死亡を減少させ、また HIV 感染者の発生を抑制することとなり、結果として医療費の抑制に貢献することが期待される。
- ・本研究の啓発活動は、企画、実施、継続できる予算規模と研究体制がなければ実施が不可能であった。戦略研究終了によりこれらの

取り組みが縮小されれば、MSM へのエイズ対策は後退するものとする。

E. 結語

首都圏では保健所を定点に、MSM が利用する商業施設やWeb サイトへの啓発介入により、HIV 検査受検促進を図った。保健所の HIV 検査受検者アンケートでは、戦略研究独自の啓発資料認知が MSM 受検者において特異的に上昇していた。定点保健所では、受検者に占める MSM 割合が上昇し、男性受検者の HIV 陽性割合も上昇し、戦略研究による広報による成果が示された。また 2010 年のエイズ患者報告数は推計値より 16.1%減少した。

阪神圏ではクリニックを定点に、MSM が利用する商業施設やWeb サイトへの啓発介入により、HIV 検査受検促進を図った。その結果定点クリニックの受検者に占める MSM 割合が上昇し、陽性割合も 5%と高かった。しかし、2010 年のエイズ患者報告数は推計値を超えた。阪神圏では、保健所等で MSM 受検機会を拡大する体制を構築できなかったことが影響していた。

F. 発表論文等

(英文)

1. M. Honda, M. Ishisaka, N. Ishizuka, S. Kimura, S. Oka and Behalf of Japanese Anti-HIV-1 QD Therapy Study Group: Open-label randomized multicenter selection study of once daily antiretroviral treatment regimen comparing ritonavir-boosted atazanavir to efavirenz with fixed-dose abacavir and lamivudine, Intern Med 50: 699-705, 2011

(和文)

1. 木村哲 (座長), 岡慎一: HIV 感染者における早期治療介入の重要性～ウイルスの変

異を見据えて～, (第 85 回日本感染症学会総会・学術講演会 ランチョンセミナー)

医薬ジャーナル 47 (7): 1904-1911, 2011

2. 木村哲: 日本における HIV 感染症の動向と現状 シリーズを始めるにあたって—日本における HIV/AIDS 診療の変遷—, 医薬の門 51: 310-314, 2011

3. 木村哲: HIV 感染予防対策の現状と課題, 日本臨床 68 (3): 536-540, 2010

4. 木村哲: HIV 感染症治療の進歩, 東京都医師会雑誌 63 (3): 294-301, 2010

5. 木村哲: HIV 感染症と AIDS の診断と指標: in 最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC 65, HIV 感染症と AIDS, 第 3 章 診断と症状・合併症 P51-59, 最新医学社, 大阪, 2010

6. 木村哲, 岡慎一, 満屋裕明 (司会): 座談会 HIV 感染症と AIDS の診療: in 最新医学・別冊 新しい診断と治療の ABC 65, HIV 感染症と AIDS, 第 3 章 診断と症状・合併症 P209-218, 最新医学社, 大阪, 2010

7. 木村哲: 序～最新の抗 HIV 療法におけるラルテグラビルの意義～, 医薬ジャーナル 46 (8): 115-118, 2010

8. 木村哲: HIV 感染症に対する新戦略 序—進化を重ねる HAART—, 化学療法の領域 25 (2): 22-25, 2009

9. 木村哲: 岡慎一, 味澤篤, 杉浦互; 座談会 抗 HIV 療法の諸問題と HIV インテグラーゼ阻害薬の役割について, 化学療法の領域 25 (2): 89-96, 2009

10. 木村哲: 第 17 回国際エイズ会議 Mexico City 2008, Confronting HIV 2009, 35: 11, 2009

11. 木村哲: HIV 感染症「治療の手引き」〈第 12 版〉, Confronting HIV 2009, 35: 12-13, 2009

12. 木村哲: 抗 HIV 療法の進歩と課題, 複十字 326: 20-21, 2009

エイズ予防のための戦略研究の効果評価と政策還元 (2)

研究分担者：岡慎一（独立行政法人国立国際医療研究センターエイズ治療研究開発センターセンター長）

研究協力者：高野操（公益財団法人エイズ予防財団）

研究要旨

エイズ予防のための戦略研究に推進室として参加した。推進室としての主たる業務は、研究のロジとデータ収集のサポート及びデータ管理であったが、本研究では、戦略研究の評価を行い戦略研究で得た知見を還元することにある。戦略研究では、同じような介入をしたにもかかわらず首都圏ではエイズ患者は予測値に比べ 16.1%減少したが、阪神地区では 82.1%増加した。この原因として考えられることは、検査の受け皿の差であり、HIV 検査の受け皿整備が非常に重要であることがわかった。また、病院での検査を今後どのように拡大していけばいいのかに関し検討が必要である。

A. 研究目的

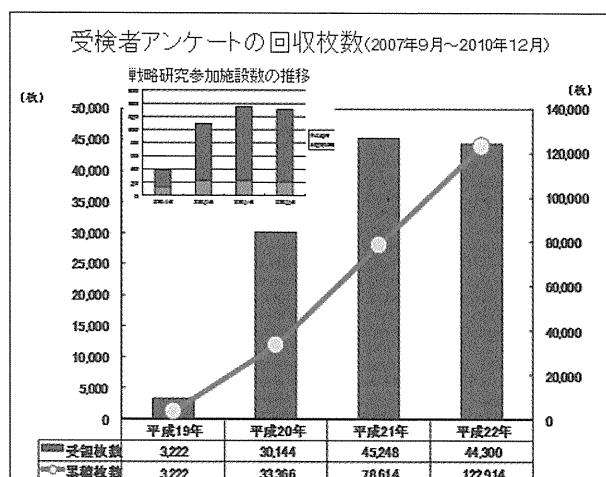
2006 年から 2010 年にかけて行われたエイズ予防のための戦略研究に推進室として参加した。本研究の目的は、戦略研究の評価を行い戦略研究で得た知見を還元することにある。

B. 研究方法

戦略研究の評価のため、首都圏及び阪神圏の検査件数とエイズ発症者数を比較し、その結果を考察した。

C. 研究結果

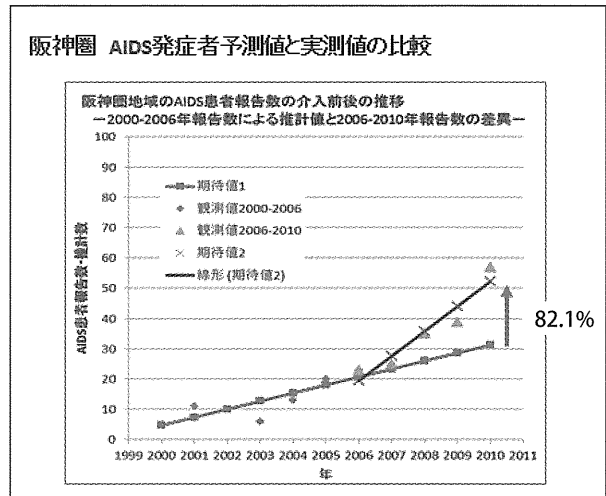
戦略研究推進室では、研究に協力してくれる施設の整備とアンケート収集のサポートを行ったが、下図のように、2008 年に参加施設がほぼ固まり 2010 年の戦略研究終了までに 12 万枚を超えるアンケートを収集することができた。



首都圏では、HIV 検査を主として保健所に設定した。アンケートの解析より首都圏での保健所の検査数における MSM の割合は、2007 年の 6.6%から 2010 年の 12.4%に増加していた。これに対し、阪神圏では、検査ができる保健所がむしろ減ってしまい、医療機関に HIV 検査を誘導した。事実、保健所では 2007 年の 11.9%から 2010 年の 10.2%とほとんど増加しなかったが、医療機関ではそれぞれ 5.7%から 22.9%に増加していた。

MSM受検者の推移-首都圏アンケートより

首都圏保健所					首都圏医療機関(婦人科除く)				
	2007年	2008年	2009年	2010年		2007年	2008年	2009年	2010年
男性	1,068	11,789	16,343	15,723	男性	調査なし	2,107	820	651
女性	762	9,088	11,805	10,831	女性	調査なし	461	184	97
MSM	131	2,261	3,258	3,816	MSM	調査なし	178	96	46
その他	10	327	376	354	その他	調査なし	65	40	11
合計	1,971	23,465	32,383	30,724	合計		2,811	1,140	805
MSM %	6.6	9.6	10.1	12.4	MSM %		6.3	8.4	5.7



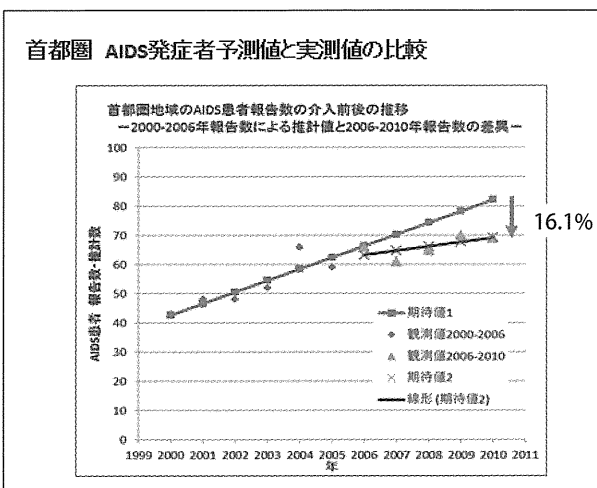
MSM受検者の推移-阪神圏アンケートより

阪神圏保健所					阪神圏医療機関(婦人科除く)				
	2007年	2008年	2009年	2010年		2007年	2008年	2009年	2010年
男性	523	1,595	5,312	5,635	男性	206	370	717	834
女性	336	1,388	4,353	4,263	女性	42	134	216	231
MSM	118	256	673	1,134	MSM	15	83	249	320
その他	11	37	119	93	その他	0	5	10	10
合計	988	3,276	10,467	11,125	合計	263	592	1,192	1,395
MSM %	11.9	7.8	6.4	10.2	MSM %	5.7	14.0	20.9	22.9

D. 考察

阪神圏では、医療機関に検査が誘導され、実際にその効果は現れているが、検査件数の実測値でみると検査件数は少なく、十分な受け皿になっていなかった可能性が大きい。この点、保健所を受け皿とした関東では、MSMの比率のみならず実数でも検査件数が増加しており、HIV感染者の早期発見につながり、エイズ発症者数の減少につながっていた可能性がある。エイズ発症者数の減少は、当初の目的である25%には達していなかったが、評価に値する数字であるといえよう。関東圏と阪神圏の差が、検査の受け皿だけの違いなのか、他の因子はなかったのかについては、今後の繊細な検討が必要である。

首都圏及び阪神圏のエイズ発症者数の予測値と実測値の比較を下図に示す。首都圏では、2010年の予測値を16.1%下回ったが、阪神圏ではむしろ82.1%増加していた。



E. 結語

HIV検査を推進する介入に当たっては、検査の受け皿となる場所の確保が非常に重要であり、その違いはエイズ患者数に直結する可能性がある。

F. 発表論文

1. Nakamura H, Teruya K, Takano M, Tsukada K, Tanuma J, Yazaki H, Honda H, Honda M, Gatanaga H, Kikuchi Y, and Oka S: Clinical symptoms and courses of primary HIV-1 infection in recent years

- in Japan. *Intern Med*, 50, 95-101, 2011
2. Honda M, Ishisaka M, Ishizuka N, Kimura S, Oka S and behalf of Japanese Anti-HIV-1 QD Therapy Study Group: Open-label randomized multicenter selection study of once daily antiretroviral treatment regimen comparing ritonavir boosted atazanavir to efavirenz with fixed-dose abacavir and lamivudine, *Intern Med*, 50, 699-705, 2011
 3. Watanabe T, Murakoshi H, Gatanaga H, Koyanagi M, Oka S, and Takiguchi M : Effective recognition of HIV-1-infected cells by HIV-1 integrase-specific HLA-B*4002-restricted T cells, *Microb Infect*, 13, 160-166, 2011
 4. Goto H, Hagiwara S, Hirai R, Miyama T, Honda H, Tagashira A, Iizuka T, Mochizuki M, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S, and Miwa A: Case of relapsed AIDS-related plasmablastic lymphoma treated with autologous stem cell transplantation and highly active antiretroviral therapy, *Rare Tumors*, 3, 33-35, 2011
 5. Ishikawa N, Ishigaki K, Ghidinelli MN, Ikeda K, Honda M, Miyamoto H, Kakimoto K, and Oka S: Paediatric HIV and elimination of mother-to-child transmission of HIV in the ASEAN region: a call to action, *AIDS Care*, 23, 413-416, 2011
 6. Davaalkham J, Unenchimeng P, Baigalmaa C, Erdenetuya G, Nyamkhuu D, Shiino T, Tsuchiya K, Hayashida T, Gatanaga H, and Oka S: Identification of a current hot spot of HIV-1 transmission in Mongolia by molecular epidemiological analysis, *AIDS Res Hum Retrovirus*, 27, 1073-1080, 2011
 7. Honda K, Zheng N, Murakoshi H, Hashimoto M, Sakai K, Borghan MA, Chikata T, Koyanagi M, Tamura Y, Gatanaga H, Oka S, and Takiguchi M: Selection of escape mutant by HLA-C-restricted HIV-1 Pol-specific cytotoxic T lymphocytes carrying strong ability to suppress HIV-1 replication, *Eur J Immunol*, 41, 97-106, 2011
 8. Hachiya A, Kodama EN, Schuckmann MM, Kirby KA, Michailidis E, Sakagami Y, Oka S, Singh K, and Sarafianos SG: K70Q adds high-level tenofovir resistance to "Q151M complex" HIV reverse transcriptase through the enhanced discrimination mechanism, *PLoS One*, 6, e16242, 2011
 9. Nagata N, Kobayashi M, Shimbo T, Hoshimoto K, Yada T, Gotoda T, Akiyama J, Oka S, and Uemura N: Diagnostic value of antigenemia assay for CMV gastrointestinal disease in immunocompromised patients, *World J Gastroenterol*, 17, 1185-1191, 2011
 10. Tsukada K, Sugawara Y, Kaneko J, Tamura S, Tachikawa N, Morisawa Y, Okugawa S, Kikuchi Y, Oka S, Kimura S, Yatomi Y, Makuuchi M, Kokudo N, Koike K: Living Donor Liver Transplantations in HIV- and Hepatitis C Virus- Coinfected Hemophiliacs: Experience in a Single Center, *Transplantation*, 91, 1261- 1264, 2011
 11. Nishijima T, Tsukada K, Nataga, N, Watanabe K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, and Oka S: Antiretoriviral therapy alone resulted in successful resolution of large idiopathic esophageal ulcers in a patient with

- acute retroviral syndrome, *AIDS*, 25, 1677-1679, 2011
12. Nishijima T, Komatsu H, Gatanaga H, Aoki T, Watanabe K, Kinai E, Honda H, Tanuma J, Yazaki H, Tsukada K, Honda M, Teruya K, Kikuchi Y and Oka S: Impact of small body weight on Tenofovir-associated renal dysfunction in HIV-infected patients: A retrospective cohort study of Japanese patients, *PLoS One*, 6, e22661, 2011
 13. Han SH, Zhou J, Saghayam S, Vanar S, Phanuphak N, Chen YM, Sirisanthana T, Sungkanuparph S, Lee CK, Pujari S, Li PC, Oka S, Saphonn V, Zhang F, Merati TP, Law MG, Choi JY: Prevalence of and risk factors for lipodystrophy among HIV-infected patients receiving combined antiretroviral treatment in the Asia-Pacific region: results from the TREAT Asia HIV Observational Database, *Endocr J*, 58, 475-484, 2011
 14. Watanabe K, Gatanaga H, Cadiz A, Tanuma J, Nozaki T, and Oka S: Amebiasis in HIV-infected Japanese men: Clinical features and response to therapy, *PLoS Neglect Trop Dis*, 5, e1318, 2011
 15. Hamada Y, Watanabe K, Aoki T, Arai N, Honda M, Kikuchi Y, Oka S: Primary HIV Infection with Acute Transverse Myelitis, *Intern Med*, 50(15), 1615-1617, 2011
 16. Nishijima T, Tsukada K, Takeuchi S, Chiba A, Honda M, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y and Oka S: Antiretroviral Therapy for Treatment-naive Chronic HIV-1 Infection with an Axonal Variant of Guillain-Barre Syndrome Positive for Anti-ganglioside Antibody: A Case Report, *Intern Med*, 50, 2427-2429, 2011
 17. Goto N and Oka S: *Pneumocystis jirovecii* pneumonia in kidney transplantation, *Transplant Infect Dis (review)*, 13, 551-558, 2011
 18. Hayashida T, Gatanaga H, Takahashi Y, Negishi F, Kikuchi Y, and Oka S: Trends in early identification of HIV-1 infection in Tokyo from 2002 to 2009 analyzed with BED assay, *Int J Infect Dis*, Jan 9, 2012 [Epub ahead of print]
 19. Hamada Y, Nagata N, Honda H, Asayama N, Teruya K, Ikari T, Kikuchi Y, and Oka S: Epstein-Barr virus associated colitis in an HIV-infected patient, *AIDS*, 26, 400-402, 2012
 20. Akahoshi T, Chikata T, Tamura Y, Gatanaga H, Oka S, and Takiguchi M: Selection and accumulation of an HIV-1 escape mutant by three types of HIV-1-specific CTLs recognizing wild-type and/or escape mutant epitopes, *J Virol*, Dec 7, 2011 [Epub ahead of print]
 21. Nishijima T, Gatanaga H, Komatsu H, Tsukada K, Shimbo T, Aoki T, Watanabe K, Kinai E, Honda H, Tanuma J, Yazaki H, Honda M, Teruya K, Kikuchi Y, and Oka S: Renal function declines more in tenofovir- than abacavir-based antiretroviral therapy in low-body weight treatment-naïve patients with HIV infection, *PLoS One*, 7, e29977, 2012
 22. Takano M, Okada M, Oka S, and Wagastuma Y: The relationship between HIV testing and CD4 counts at HIV diagnosis among newly diagnosed HIV-1 patients in Japan, *Int J STD AIDS (in press)*
 23. Sassi M, Ripamonti C, Muller NJ, Yazaki H, Kutty G, Ma L, Huber C, Gogineni E, Oka S, Goto N, Fehr T, Gianella S, Konrad

R, Sing A, and Kovacs JA: Outbreaks of *Pneumocystis* pneumonia in two renal transplant centers linked to a single strain of *Pneumocystis*: Implications for transmission and virulence, Clin Infect Dis (in press)

24. Nishijima T, Tsukada K, Teruya K, Gatanaga H, Kikuchi Y, and Oka S: Efficacy and safety of once-daily ritonavir-boosted darunavir plus abacavir/lamivudine for treatment-naïve patients: A pilot study, AIDS, Jan 10, 2012 [Epub ahead of print]

東北地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究分担者：伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター 医長）

研究協力者：太田貴、高橋幸二（公益財団法人エイズ予防財団/やろっこ）、小浜耕治（東北 HIV コミュニケーションズ）、山本善彦、佐藤功、塚本琢也、鈴木智子、武藤愛、伊藤ひとみ（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

研究要旨

仙台市繁華街における MSM 対象のドロップイン施設（community center ZEL）が開設 2 年目となり、同施設を拠点として MSM における HIV 感染拡大抑制のための企画立案・実施・評価研究がなされた。東日本大震災の影響として、ゲイコミュニティにおけるイベントの中止、ゲイビーチの喪失、商業施設の減少等が見られた。しかし一方で開館時間を延ばすことにより来館者は 1466 名に増加（新規来館者は 128 名）したことは評価できるものと思われる。Web による調査では HIV 検査の過去 1 年間の受検率が 32% と今までの最高の数字を呈した。残念なことに、コンドーム配布数は 9 ヶ月間で 1,950 個（11 店舗）で前年度の配布数（4,250 個）の半数以下であり、新たな企画立案の必要性が示唆された。

医療現場における HIV 診療の二極化は各県に中核拠点病院が整備されたことにより、今後改善していくことが期待される。感染拡大を抑制していくには抗体検査の実施機会を増やし早期診断を促す必要がある。AIDS 発症率を低下させるためにも性感染症（梅毒、B 型肝炎、クラミジア etc.）や免疫障害だけでなくあらゆる機会をとらえて抗体検査を実施していく必要がある。

A. 研究目的

HIV 感染症の拡大を抑止するためには MSM に対する積極的なアプローチが必要である。効果的な HIV 感染予防対策のため、MSM を対象に種々の企画を立案・実施し、さらにその評価を的確に行うための体制整備に関して研究を行う。東北地域における研究を分担した。

B. 研究方法

「仙台医療センター」、平成 5 年より HIV に関わる活動をしている NPO「東北 HIV コミュニケーションズ（THC）」、ゲイコミュニティ向けの HIV 啓発チーム「やろっこ」の三者を中心として、行政、医療、福祉、コミュニティ等と協働して東北地方における男性同性間の HIV 感染対策（下記 1～4 の事項）について、

介入、企画実施、調査・研究を行なった。特に 3 のゲイコミュニティへの啓発活動として、community center ZEL の運営、啓発資材の作成・配布、HIV を身近に感じるためのイベントの開催、ゲイコミュニティを対象としたアンケート調査を行った。

1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め
2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複性感染症（STI）の解析
3. ゲイコミュニティへの啓発活動
4. 行政との連携

C. 研究結果

HIV 感染者・AIDS 患者の累積数は平成 23 年 12 月 25 日時点で 441 名と報告され、平成 22 年同時期と比べ 33 名増加した（図 1）。

仙台医療センターの受診者の内訳（図2）をみると、近年の初診 HIV 感染者は男性同性間での性的接触による感染（MSM）がほとんどで、東北における MSM 対象の介入研究の重要性は他の地域と同様である。昨年度と比較して目立つのは当施設における初診 HIV 患者数が最近数年の減少傾向から一気に増加したことである（10人→19人）。

1. 医療者への積極的な HIV 検査の勧め

HIV 感染症は性感染症（STI）であることから種々の STI の診断を HIV 抗体検査の機会ととらえ検査件数の増加を促し、早期診断に結び付けることができる。以下に記す種々の研修会・会議を通して医療従事者に対して、積極的な HIV 検査の必要性について情報提供するとともに、行政とも連携し抗体迅速検査を実践した。

東北エイズ/HIV 看護研修（H23. 9. 27:仙台、29名参加）、東北エイズ歯科診療協議会（H23. 1. 29:仙台 25名参加、H24. 1. 28:仙台）、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議（H23. 1. 13 仙台 55名参加、H23. 7. 26:盛岡、46名参加、H24. 1. 20:仙台）、東北エイズ/HIV 拠点病院等薬剤師連絡会議（H23. 11. 12: 仙台、29名参加）、東北エイズ・HIV 拠点病院等心理・福祉職連絡会議（H23. 11. 12:仙台、23名参加）、仙台医療センター健康まつり即日検査会（H23. 10. 29:仙台、30名受検）、東北エイズ臨床カンファレンス（H23. 2. 5:仙台、81名参加、H24. 2. 26、49名参加）、東北 HIV ネット

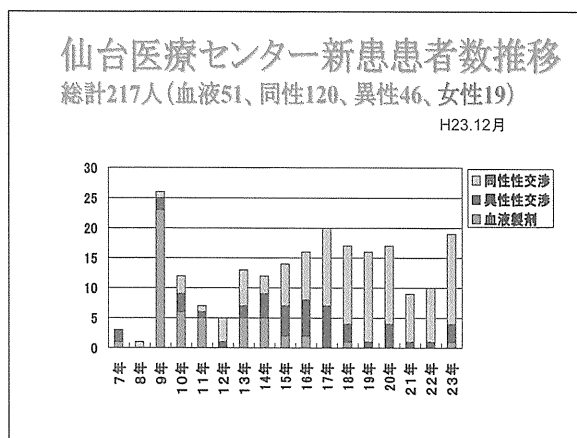


図2

ワーク会議（H23. 2. 5:仙台、8名、H24. 3. 5、14名参加）、第三回宮城県 HIV/AIDS 勉強会（H23. 8. 20:仙台、80名参加）、岩手県中学・高校生実地学習会受け入れ（H23. 11. 19:仙台、25名受け入れ）、AIDS/HIV 感染症出張セミナー（岩手）、医療相談・意見交換会（H23. 10. 1 NPO 法人ネットワーク医療と人権主催、仙台約20名参加）、院内新人オリエンテーション（H23. 4. 6）、山形病院附属看護学校看護師対象講義（H23. 11. 8）。上記のほか以下に記す種々の HIV 関連会議への参加活動がある。平成22年度ブロックカウンセラー会議（H22. 1）、青森医療懇話会（H23. 9）、平成23年度第一回ブロックカウンセラー会議（H23. 9）、血液凝固異常症における HIV 感染症に関する会議（木村班、H23. 6. 17、東京）、ACC/ブロック拠点病院看護実務者担当会議（H23. 6. 17、18）、関西 HIV 臨床カンファレンス（H23. 7. 2 大阪）、第27回中国・四国薬剤師のための抗 HIV 薬服薬指導研修会（H23. 7. 16、17）、長期治療について座談会（H23. 12. 17、長期実務実習生への講義（薬剤師対象、年3回）、etc。

2. 仙台医療センターの HIV 感染者における重複 STI の解析

重複 STI の解析（図3）では、MSM における STI 重複感染率（特に梅毒、クラミジア、B型肝炎）は非常に高い。本調査がカルテベースの後ろ向き調査であることを考えると、実際の重複感染率は、さらに高値を呈するものと思われる。

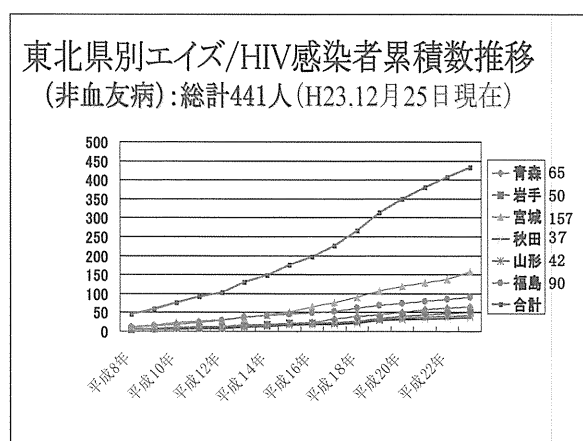


図1

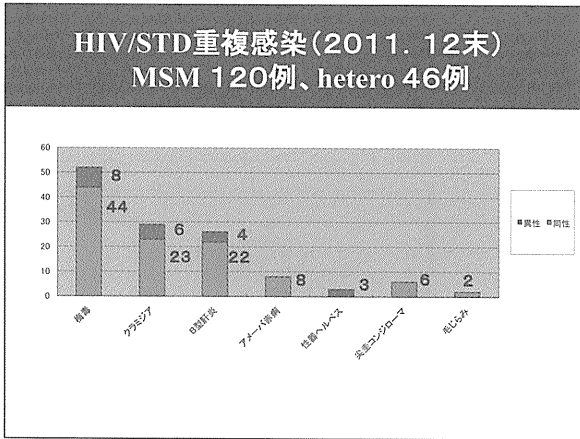


図 3

3. ゲイコミュニティへの啓発活動

MSMを対象としたcommunity center ZELは、2010年3月20日に仙台の繁華街である国分町に開設され、仙台でMSMを対象にHIVの情報を届けるボランティアグループ「やろっこ」が運営を担っている。2010年度には、1,311名の来場者があり、HIVに関する情報提供を行った。

2011年4月よりこれまでの週4日開館から、週5日開館と開館日を増やし、また日曜・祝日の開館時間を5時から7時間に延長した。この結果、2011年度の入館者は12月末までに、すでに前年度の年間来場者を超える1,466名に及んでいる(図4)。

ZELでは、HIVに関連した冊子やコンドームを配布するだけでなく、アンケート結果の報告会や、参加者が性について感じている事を自由に話せるイベント等を通してHIVに関する情報提供を行ったり、ZELの周知を目的に、MSMを対象とした出会いイベントや、写真展なども開催した結果、12月までの新規来場者数は128名となった(図4,5)。他に、行政向けにZELの成果報告会やHIV検査担当者研修を実施し、行政との関係構築を図った(図6)。

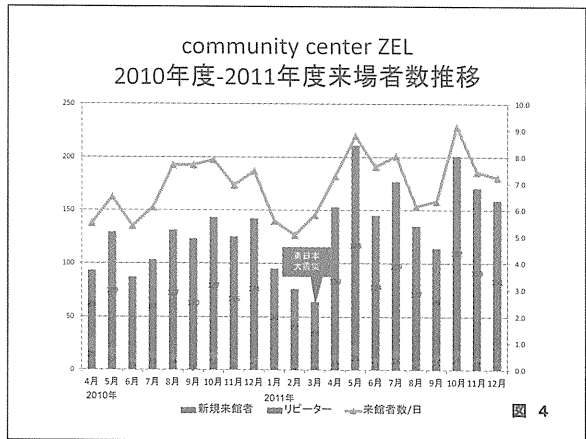


図 4

community center ZEL開催イベント

月日	イベント内容	来館者数
4/16(土)	♂×♂出会いイベントMOON	15名
5/14(土)	R-35 35歳からのGAY LIFE	14名
6/3-5/14	男魂-MEN SOUL-写真展	期間計75名
7/16(土)	♂×♂出会いイベントMOON	9名
8/20(土)	タチ×ウケぶっちゃんトーク	8名
9/17(土)	R-35 35歳からのGAY LIFE	12名
10/15(土)	♂×♂出会いイベントMOON	9名
11/19(土)	ゲイの行動白書	5名
12/3(土)	Living Together in SENDAI-vol.5	60名

クラブイベント(やろっこ主催)
5/4(水) 男魂-MEN SOUL-FINAL 来場者数 118名
10/8(土) eeny meeny miny moe 来場者数 84名

図 5

HIV検査担当者向け研修

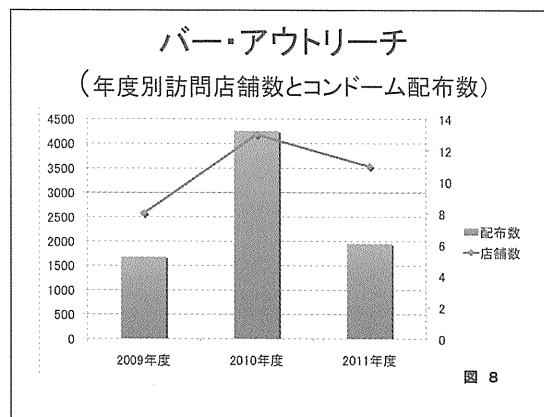
- 6/22(水)ZEL成果報告会
参加者6名
仙台市担当課、各区HIV担当者
- 10/31(月)HIV検査担当者向け研修
参加者:22名(申込25名)
医師、看護士、保健師、薬剤師、心理職など
仙台市、結核予防会(仙台市の夜間即日検査受託)の検査担当者他、
青森、秋田、岩手、福島からも参加有り。

研修参加者との関係性の継続
仙台市宮城野区から検査体制に関する相談あり。
いわき市保健所からセクシュアリティに関する勉強会の講師依頼あり。

図 6

啓発資材の配布としては、仙台市エイズ即日検査会のMSM向け告知資材(ポスターとカード)をゲイバーなど、MSM向けの商業施設に配布。HIV検査の啓発を行った。また、ゲイバーへの定期的なコンドーム配布を行い、4月から12月までの9ヶ月間で11店舗に計1,950個配布した。前年度の配布数(4,250個)の半数以下となったが、この理由として、閉店により配布協力店舗

が減った事もあるが、2年目ということで、コミュニティ内で、無料配布の condom に対する飽和状態が生まれている事が考えられる。実際、2ヶ月に一度配布している community center ZEL のフリーペーパーは、今年度のべ 3,500 部以上を作成・配布しており、condom の持ち帰り数が落ちていることが推測される。その他にも、クラブイベントで condom 等啓発資材を配布したが、震災の影響で前年度まで行っていたバレーボール大会や MSM の集まる海岸（ゲイビーチ）では condom 配布ができなかった。HIV を身近に感じるためのイベントとしては、12月に、「ぼくらの課外授業-Living Together in SENDAI」を世界エイズデーせんだい・みやぎキャンペーンの一環として開催（来場者 60 名）。午後に HIV に関わっているゲストを迎えたシンポジウムと、HIV 陽性者が書いた手記のリーディングを、夜間に MSM を対象としたショーと HIV 陽性者が書いた手記のリーディングを行った（図 7, 8）。



4. MSM を対象としたアンケート調査

クラブイベント Men Soul と連携した web アンケート調査（5 月）と、コミュニティセンター ZEL のフリーペーパーと連動した web アンケート（GCQ アンケート、12 月～2 月）を実施した。

クラブイベント Men Soul の調査は東北地域在住 MSM が 107 人、その年齢階級別結果を表 2、3 に示した。29 歳以下が半数を占める回答であった。HIV 検査受検経験は生涯受検では 59.9%、過去 1 年間受検経験率は 29.9% で、過去 1 年間の受検率は 2009 年の調査に近い結果であった（表 1）。29 歳以下が 34%、30 歳以上では 26% 前後で低い。なお昨年と同調査に回答したものは 22.4% であった。

表 1 HIV 抗体検査の受検率（過去 1 年間）

2007	2008	2009	2010	2011
13%	24%	29%	23%	30%

GCQ アンケートの年齢階級別の結果を表 4-10 に示した。250 人の回答者の内、58% が宮城県在住で、山形、福島、岩手、青森、秋田からの参加者があった。友人・知人に HIV 感染者が「いる」の回答は 24.4%、友人・知人と HIV/AIDS について話したことが「ある」の回答は 38.4% であった。生涯の HIV 検査受検経験割合は 19.6% と低く年齢による差異はなかった。過去 1 年間の受検経験割合は 12.4% であった。クラブイベント Men Soul 調査よりも低い結果で、高い年齢層の回答割

HIV 抗体検査受検率の向上に関する取り組み

- 東北地域の HIV 検査情報の告知 (HP にて。震災後)
- 仙台市 HIV 検査会の MSM 向け告知資材の作成・配布

場所	配布数	店舗数
ゲイバー(仙台)11店舗	200	22
ゲイショップ(仙台)1店舗	100	2
クラブイベント(仙台)	85	4
community center ZEL(仙台)	120	2
ゲイバー(青森/岩手/山形/福島)18店舗	180	38
仙台市保健所対策課(市立保健センター)	120	12
エイズ対策財団	10	2
コミュニティセンター(全国)6カ所	60	12
日本エイズ学会	70	0
合計	1000	92

- Living Together in SENDAI
12/3(土)13:30～21:00
参加者のべ 60 名
(シンポジウム 18 名、MSM 向け 48 名)



図 7

合が高いことが影響していると思われる。

5. 行政等との連携

1) HIV 迅速検査会 (H23. 12. 3: 仙台市主催、受検者 140 名)、2) 仙台医療センター健康まつりブース (H23. 10. 29: 仙台医療センター主催) にて分担研究者・研究協力者がカウンセリングに協力するなど援助を行なった。3) 仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会への参画: 仙台市の HIV 施策策定のための協議会に参画した。4) 養護・介護老人施設 191 ケ所職員を対象とした HIV 感染症対策研修会 (H23. 10. 25、95 名参加、仙台市主催)。5) HIV 陽性者相談支援研修会 (仙台市主催、H24. 2. 1)。

D. 考察

東北においては、診断時 AIDS を発症している、いわゆるいきなり AIDS の率が高い。動向調査によれば H23. 12 月の時点で、いきなり AIDS 率は 33% (昨年同時期は 50%) を呈しているが、当院の年末までの初診患者の高い数字をみると、年度末残る 3 カ月の動きに注意を払う必要がある。この状況を改善させていくためには例年同様、種々の職種における研修会・研究活動を活発化し、HIV 感染症について意識を高め HIV 抗体検査実施件数を増やすとともに感染予防の啓発をすすめていく必要がある。

東日本大震災による活動への影響は無視できない。太平洋側地域で HIV 検査が実施できない状況が続いたり (迅速検査会は 6 月は中止)、少ない人数ではあるが、HIV 陽性者が服薬・通院できない状況が見られたりした。東北地域のゲイコミュニティでも、イベントの中止、ゲイビーチの喪失、商業施設の減少等、少なからず影響が見られた。しかし、一方で community center ZEL の来館者数は増加したことは評価できる。また、アンケートの結果を見ると、過去 1 年間の HIV 抗体検査の受検率は過去最高で、H23 年 12 月の実施された仙台市エイズ即日検査会の受検者数も 143 名と

過去最高だった。

HIV 検査が普及しつつある状況の中、東北地域では、HIV 陽性者が相談できる場所や HIV 陽性者同士が情報交換できる場が不足しており、このような状況を改善するための取り組みが急務である。

E. 結語

東日本大震災の影響下ではあったが、東北 (仙台) のゲイコミュニティへ向けた啓発 (企画、実施、評価) の体制作りが ZEL を中心とした活動により進みつつある。その中で今年度はコンドーム配布数が減少しており、新たな企画立案が必要かもしれない。東北各地域の MSM との接触機会を増やし活動範囲を広げ、HIV 感染拡大に対する予防啓発活動を積極的に進めていく必要がある。今後も協力可能な NGO と連携を強め、MSM におけるゲイコミュニティの理解を得つつ、より効果的なプログラムを開発・提供し、彼らの行動変容が可能になるようにしてゆく必要がある。そのためには戦略的に行政等の機関への提言を行い、より広い連携体制を構築してゆくことが求められる。

F. 発表論文等

1. ○Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan, *Sexual Health*, 8(1), 123-124, 2011

学会発表

1. 服部純子, 椎野禎一郎, 湯永博之, 林田庸総, 吉田繁, 千葉仁志, 小池隆夫, 佐々木悟, 伊藤俊広, 内田和江, 原孝, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 近藤真規子, 長島真美, 貞升健志, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 加

- 藤真吾, 藤井毅, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 横幕能行, 上田幹夫, 大家正義, 田邊嘉也, 渡辺香奈子, 渡邊大, 白阪琢磨, 小島洋子, 森治代, 中桐逸博, 藤井輝久, 高田昇, 木村昭郎, 南留美, 山本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦互: 新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIVの動向, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京
2. 椎野禎一郎, 服部純子, 瀧永博之, 吉田繁, 伊藤俊広, 上田敦久, 近藤真規子, 貞升健志, 藤井毅, 横幕能行, 上田幹夫, 田邊嘉也, 渡邊大, 森治代, 藤井輝久, 南留美, 健山正男, 杉浦互: 国内感染者集団の大規模塩基配列解析2: Subtype Bの動向と微小系統群の同定, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京
 3. 菊池嘉, 遠藤知之, 宮城島拓人, 伊藤俊広, 中村仁美, 田邊嘉也, 上田幹夫, 横幕能行, 渡邊大, 藤井輝久, 南留美, 健山正男: 多施設共同疫学調査におけるHAARTの有効率2010, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年12月, 東京
 4. 伊藤俊広, 山彦, 塚本琢也, 佐藤功: 初診時エイズ発症本善HIV感染症例(いきなりエイズ)に関する検討, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京
 5. 山口泰, 仁木孝行, 伊藤俊広, 山本善彦, 佐藤功: 拠点病院における歯科治療の意義—多発カリエス患者とチームアプローチの検討—, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京
 6. 塚本琢也, 佐藤麻希, 阿部憲介, 鈴木智子, 武藤愛, 伊藤ひとみ, 佐藤功, 山本善彦, 伊藤俊広: 災害発生時におけるHIV医療従事者と患者の対応と備えの在り方について: 東日本大震災の経験から, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京
 7. 辻典子, 田村恵子, 鈴木智子, 須貝恵, 小塚雅子, 井内亜紀子, 濱本京子, 吉用緑, 山本政弘: エイズ拠点病院から地域医療機関への患者紹介の現状その1~拠点病院から一般病院への紹介~, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京
 8. 吉用緑, 田村恵子, 鈴木智子, 須貝恵, 辻典子, 小塚雅子, 井内亜紀子, 濱本京子, 山本政弘: エイズ拠点病院から地域医療機関への患者紹介の現状についてその2~拠点病院から診療所/クリニックへの紹介~, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011年11月, 東京

表2 Men Soul 2011 バナーからの回答者

東北地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMにおける年齢別分析(1)

	年齢						合計	Pearson カイ 2 乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
居住地									
仙台市内	27	50.9%	14	40.0%	10	52.6%	51	47.7%	0.48
宮城県	12	22.6%	9	25.7%	3	15.8%	24	22.4%	
山形県	5	9.4%	2	5.7%	4	21.1%	11	10.3%	
福島県	6	11.3%	5	14.3%	1	5.3%	12	11.2%	
岩手県	3	5.7%	3	8.6%	0	0.0%	6	5.6%	
青森県	0	0.0%	2	5.7%	1	5.3%	3	2.8%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
性的指向									
ゲイ	42	79.2%	27	77.1%	17	89.5%	86	80.4%	0.75
バイセクシュアル	9	17.0%	6	17.1%	2	10.5%	17	15.9%	
わからない	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	
決めたくない	1	1.9%	2	5.7%	0	0.0%	3	2.8%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
あなたの職業を教えてください。									
学生	17	32.1%	0	0.0%	0	0.0%	17	15.9%	<0.01
アルバイト/パートタイム	5	9.4%	2	5.7%	0	0.0%	7	6.5%	
正規雇用	20	37.7%	24	68.6%	11	57.9%	55	51.4%	
契約など非正規雇用	7	13.2%	1	2.9%	3	15.8%	11	10.3%	
無職	3	5.7%	3	8.6%	1	5.3%	7	6.5%	
その他	1	1.9%	5	14.3%	4	21.1%	10	9.3%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
過去6ヶ月以内の利用施設等(複数回答)									
サウナ系ハッテン場	7	13.2%	12	34.3%	8	42.1%	27	25.2%	0.01
ビデオボックス系ハッテン場	6	11.3%	8	22.9%	2	10.5%	16	15.0%	
ハッテン場で有名な公共施設	3	5.7%	13	37.1%	2	10.5%	18	16.8%	<0.01
クラブ(男女mix)	6	11.3%	2	5.7%	2	10.5%	10	9.3%	
クラブ(男only)	6	11.3%	5	14.3%	1	5.3%	12	11.2%	0.60
ゲイバー	27	50.9%	18	51.4%	10	52.6%	55	51.4%	
お金をもらったセックス	3	5.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.8%	0.21
お金を払ったセックス	1	1.9%	4	11.4%	2	10.5%	7	6.5%	
ネットで合った男性とセックス	18	34.0%	12	34.3%	4	21.1%	34	31.8%	0.54
携帯出会い系サイト	17	32.1%	15	42.9%	4	21.1%	36	33.6%	
mixi	19	35.8%	16	45.7%	6	31.6%	41	38.3%	0.52
エロ系SNS	30	56.6%	13	37.1%	7	36.8%	50	46.7%	
これまでにHIV/AIDSの検査を受けたことがありますか？									
6ヶ月以内に受けた	9	17.0%	4	11.4%	2	10.5%	15	14.0%	0.98
1年以内に受けた	9	17.0%	5	14.3%	3	15.8%	17	15.9%	
1年よりもっと前に受けた	14	26.4%	11	31.4%	6	31.6%	31	29.0%	
受けたことがない	21	39.6%	15	42.9%	8	42.1%	44	41.1%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
これまでに検査を受けた場所はどこですか？(複数回答)									
病院・医院	5	9.4%	5	14.3%	4	21.1%	14	13.1%	0.42
平日検査	24	45.3%	9	25.7%	5	26.3%	38	35.5%	
夜間検査	4	7.5%	2	5.7%	1	5.3%	7	6.5%	0.92
土曜検査	0	0.0%	5	14.3%	0	0.0%	5	4.7%	
休日検査	1	1.9%	2	5.7%	0	0.0%	3	2.8%	0.41
HIV検査イベント・臨時検査会	2	3.8%	2	5.7%	2	10.5%	6	5.6%	
自宅検査キット	1	1.9%	1	2.9%	2	10.5%	4	3.7%	0.22

表3 Men Soul 2011 バナーからの回答者

東北地域在住のゲイ・バイセクシュアル男性およびMSMにおける年齢別分析(2)

	年齢						合計	Pearson カイ 2 乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
過去6ヶ月間のアナルセックス経験									
なし	14	26.4%	10	28.6%	9	47.4%	33	30.8%	0.22
あり	39	73.6%	25	71.4%	10	52.6%	74	69.2%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
過去6ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム常用割合*1									
非常用	16	41.0%	13	52.0%	6	60.0%	35	47.3%	0.48
常用	23	59.0%	12	48.0%	4	40.0%	39	52.7%	
合計	39	100.0%	25	100.0%	10	100.0%	74	100.0%	
特定相手との過去6ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム常用割合									
非常用	13	36.1%	10	52.6%	5	71.4%	28	45.2%	0.17
常用	23	63.9%	9	47.4%	2	28.6%	34	54.8%	
合計	36	100.0%	19	100.0%	7	100.0%	62	100.0%	
不特定相手との過去6ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム常用割合									
非常用	11	39.3%	8	34.8%	3	42.9%	22	37.9%	0.91
常用	17	60.7%	15	65.2%	4	57.1%	36	62.1%	
合計	28	100.0%	23	100.0%	7	100.0%	58	100.0%	
あなたは仙台地域で活動している「やろっこ」を知っていますか？									
知っている	23	43.4%	18	51.4%	9	47.4%	50	46.7%	0.76
知らない	30	56.6%	17	48.6%	10	52.6%	57	53.3%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
あなたは仙台市にあるコミュニティセンターZEL（ゼル）を知っていますか？									
行ったことがある	8	15.1%	8	22.9%	2	10.5%	18	16.8%	0.68
知っている	18	34.0%	8	22.9%	6	31.6%	32	29.9%	
知らない	27	50.9%	19	54.3%	11	57.9%	57	53.3%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
下記のイベントやプログラム、サイトを知っていますか？(複数回答)									
ぼくらの課外授業-LT in Sendai-	7	13.2%	9	25.7%	5	26.3%	21	19.6%	0.25
男魂-MenSoul-@仙台	20	37.7%	16	45.7%	8	42.1%	44	41.1%	0.75
Love Beach Project	5	9.4%	8	22.9%	5	26.3%	18	16.8%	0.12
東北バー対抗バレー大会	17	32.1%	11	31.4%	8	42.1%	36	33.6%	0.69
ぼくらの課外授業web site	3	5.7%	6	17.1%	2	10.5%	11	10.3%	0.22
やろっこホームページPC	8	15.1%	7	20.0%	6	31.6%	21	19.6%	0.30
やろっこブログ携帯	7	13.2%	6	17.1%	2	10.5%	15	14.0%	0.78
あなたは「やろっこ」が配布しているコンドームを知っていますか？									
知っている	25	47.2%	16	45.7%	8	42.1%	49	45.8%	0.93
知らない	28	52.8%	19	54.3%	11	57.9%	58	54.2%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	
去年実施した『男魂webアンケート2010』に答えましたか？									
はい	9	17.0%	11	31.4%	4	21.1%	24	22.4%	0.28
いいえ	44	83.0%	24	68.6%	15	78.9%	83	77.6%	
合計	53	100.0%	35	100.0%	19	100.0%	107	100.0%	

*1 過去6ヶ月間のアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

*2 過去6ヶ月間に特定相手とのアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

*3 過去6ヶ月間に不特定相手とのアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

表 4 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(1)

	年齢階級						合計	Pearson カイ2乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
居住地域									
青森県	4	4.7%	4	4.0%	1	1.5%	9	3.6%	0.28
岩手県	7	8.2%	7	7.1%	4	6.1%	18	7.2%	
宮城県	49	57.6%	58	58.6%	38	57.6%	145	58.0%	
秋田県	2	2.4%	7	7.1%	0	0.0%	9	3.6%	
山形県	10	11.8%	15	15.2%	10	15.2%	35	14.0%	
福島県	13	15.3%	8	8.1%	13	19.7%	34	13.6%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
性的指向									
ゲイ(同性愛者)	56	65.9%	64	64.6%	42	63.6%	162	64.8%	1.00
バイセクシュアル(両性愛者)	28	32.9%	34	34.3%	23	34.8%	85	34.0%	
ヘテロセクシュアル(異性愛者)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
決めたくない	1	1.2%	1	1.0%	1	1.5%	3	1.2%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
あなたは、現在だれかと一緒に暮らしていますか？									
一人暮らし	45	52.9%	56	56.6%	18	27.3%	119	47.6%	<0.01
家族と同居	33	38.8%	39	39.4%	47	71.2%	119	47.6%	
家族以外と同居	7	8.2%	4	4.0%	1	1.5%	12	4.8%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
現在、あなたの雇用形態は次のどれにあてはまりますか？									
正規雇用	0	0.0%	9	9.1%	25	37.9%	34	13.6%	<0.01
非正規雇用	85	100.0%	90	90.9%	41	62.1%	216	86.4%	
働いてない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
あなたは現在、結婚していますか？									
結婚している	-	-	-	-	-	-	-	-	-
結婚していない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あなたは現在、健康保険を持っていますか？									
国民健康保険	21	24.7%	12	12.1%	16	24.2%	49	19.6%	<0.01
職場の健康保険	26	30.6%	82	82.8%	45	68.2%	153	61.2%	
被扶養者の健康保険(家族・親族等の扶養)	35	41.2%	0	0.0%	0	0.0%	35	14.0%	
持っていない	3	3.5%	5	5.1%	5	7.6%	13	5.2%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	

表5 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(2)

	年齢階級						合計	Pearson カイ2乗		
	29歳以下		30-39歳		40歳以上					
過去6ヵ月間に、ゲイバーをどのくらい利用しましたか？										
よく利用した(毎週1回以上)	17	20.0%	23	23.2%	14	21.2%	54	21.6%	0.30	
まあまあ利用した	39	45.9%	52	52.5%	40	60.6%	131	52.4%		
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	13	15.3%	10	10.1%	8	12.1%	31	12.4%		
全く利用しなかった	16	18.8%	14	14.1%	4	6.1%	34	13.6%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヵ月間に、有料ハッテン場をどのくらい利用しましたか？										
よく利用した(毎週1回以上)	3	3.5%	10	10.1%	2	3.0%	15	6.0%	0.08	
まあまあ利用した	18	21.2%	13	13.1%	7	10.6%	38	15.2%		
あまり利用しなかった(半年に2回以下)	18	21.2%	17	17.2%	20	30.3%	55	22.0%		
全く利用しなかった	46	54.1%	59	59.6%	37	56.1%	142	56.8%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
次の中で過去6ヵ月間に利用したものはありますか？(複数回答)										
ゲイバー	63	74.1%	72	72.7%	54	81.8%	189	75.6%	0.38	
ゲイナイト	21	24.7%	44	44.4%	13	19.7%	78	31.2%		
ゲイショップ	23	27.1%	27	27.3%	16	24.2%	66	26.4%		
PC出会い系サイト	7	8.2%	12	12.1%	6	9.1%	25	10.0%		
携帯出会い系サイト	34	40.0%	28	28.3%	14	21.2%	76	30.4%		
mixiなどのSNS	38	44.7%	30	30.3%	8	12.1%	76	30.4%		
エロ系SNS	17	20.0%	16	16.2%	6	9.1%	39	15.6%		
スマートフォンのゲイ向けアプリ	21	24.7%	22	22.2%	8	12.1%	51	20.4%		
ゲイ向けサークル	2	2.4%	3	3.0%	0	0.0%	5	2.0%		
ゲイ向け合コン	2	2.4%	2	2.0%	1	1.5%	5	2.0%		
ゲイの乱パ	2	2.4%	7	7.1%	2	3.0%	11	4.4%		
有料のハッテン場	16	18.8%	14	14.1%	6	9.1%	36	14.4%		
野外のハッテン場	6	7.1%	12	12.1%	6	9.1%	24	9.6%		
ハッテン場で有名な公共施設	12	14.1%	18	18.2%	12	18.2%	42	16.8%		
あなたの友達や知り合いにHIVに感染している人はいると思いますか？										
いる	17	20.0%	25	25.3%	19	28.8%	61	24.4%		0.13
いると思う	44	51.8%	63	63.6%	36	54.5%	143	57.2%		
いないと思う	13	15.3%	5	5.1%	5	7.6%	23	9.2%		
いない	0	0.0%	1	1.0%	1	1.5%	2	0.8%		
わからない	11	12.9%	5	5.1%	5	7.6%	21	8.4%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヵ月間に彼氏や恋人とHIVやエイズについて話したことがありますか？										
ある	17	20.0%	23	23.2%	18	27.3%	58	23.2%	0.28	
ない	39	45.9%	51	51.5%	36	54.5%	126	50.4%		
彼氏・恋人がいなかった	29	34.1%	25	25.3%	12	18.2%	66	26.4%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヵ月間に友達や知り合いとHIVやエイズについて話したことがありますか？										
ある	25	29.4%	40	40.4%	31	47.0%	96	38.4%	0.08	
ない	60	70.6%	59	59.6%	35	53.0%	154	61.6%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		

表6 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(3)

	年齢階級						合計	Pearson カイ2乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けようと思ったことはありますか？									
ある	38	44.7%	47	47.5%	33	50.0%	118	47.2%	0.81
ない	47	55.3%	52	52.5%	33	50.0%	132	52.8%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？									
ある	17	20.0%	17	17.2%	15	22.7%	49	19.6%	0.67
ない	68	80.0%	82	82.8%	51	77.3%	201	80.4%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか？(複数回答)									
保健所の通常検査	8	9.4%	13	13.1%	11	16.7%	32	12.8%	0.33
保健所の即日検査	13	15.3%	10	10.1%	9	13.6%	32	12.8%	0.69
保健所の夜間検査	1	1.2%	5	5.1%	3	4.5%	9	3.6%	0.43
医療センターなどの病院	2	2.4%	2	2.0%	2	3.0%	6	2.4%	0.94
クリニック・医院・診療所	0	0.0%	2	2.0%	1	1.5%	3	1.2%	0.60
郵送検査キット	0	0.0%	1	1.0%	1	1.5%	2	0.8%	0.75
ゲイ向けの日曜検査	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
その他	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.4%	0.63
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことはありますか？									
ある	12	14.1%	10	10.1%	9	13.6%	31	12.4%	0.96
ない	4	4.7%	4	4.0%	4	6.1%	12	4.8%	
1年以上前に陽性を確認	1	1.2%	2	2.0%	1	1.5%	4	1.6%	
答えたくない	0	0.0%	1	1.0%	1	1.5%	2	0.8%	
生涯受検経験なし	68	80.0%	82	82.8%	51	77.3%	201	80.4%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか？(複数回答)									
保健所の通常検査	4	4.7%	7	7.1%	6	9.1%	17	6.8%	0.51
保健所の即日検査	8	9.4%	6	6.1%	5	7.6%	19	7.6%	0.94
保健所の夜間検査	0	0.0%	4	4.0%	4	6.1%	8	3.2%	0.19
医療センターなどの病院	1	1.2%	0	0.0%	1	1.5%	2	0.8%	0.88
クリニック・医院・診療所	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	1	0.4%	0.76
郵送検査キット	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-

表7 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(4)

	年齢階級								合計	Pearson カイ2乗
	29歳以下		30-39歳		40歳以上					
これまでに男性とセックスをしたことがありますか？										
ある	81	95.3%	97	98.0%	63	95.5%	241	96.4%	0.55	
ない	4	4.7%	2	2.0%	3	4.5%	9	3.6%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
これまでに男性とアナルセックスをしたことがありますか？										
ある	22	25.9%	22	22.2%	11	16.7%	55	22.0%	0.40	
ない	63	74.1%	77	77.8%	55	83.3%	195	78.0%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヶ月間のオーラルセックス経験										
なし	27	31.8%	25	25.3%	18	27.3%	70	28.0%	0.61	
あり	58	68.2%	74	74.7%	48	72.7%	180	72.0%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヶ月間の薬物併用経験(ラッシュ・ゴメオ・バイアグラ・その他のセックスドラッグ等)										
いずれも利用なし	63	74.1%	58	58.6%	17	25.8%	138	55.2%	<0.01	
いずれか利用	22	25.9%	41	41.4%	49	74.2%	112	44.8%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヶ月間に、コンドームを買ったことがありますか？										
ある	29	34.1%	40	40.4%	23	34.8%	92	36.8%	0.63	
ない	56	65.9%	59	59.6%	43	65.2%	158	63.2%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		
過去6ヶ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？										
いつも持っていた	19	22.4%	21	21.2%	20	30.3%	60	24.0%	0.16	
時々持っていた	34	40.0%	48	48.5%	33	50.0%	115	46.0%		
持っていなかった	32	37.6%	30	30.3%	13	19.7%	75	30.0%		
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%		